

## 第65回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年12月1日（金） 10：30－11：25
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
葛西委員長、松井委員長代理、後藤委員、中須賀委員、山川委員
  - (2) 政府側  
和泉内閣総理大臣補佐官  
河内内閣府事務次官  
高田宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官
4. 議事次第
  - (1) 最近の宇宙政策の取組状況について
  - (2) 宇宙基本計画の工程表改訂案について
  - (3) その他
5. 議事
  - (1) 最近の宇宙政策の取組状況について  
事務局より、最近の宇宙政策の取組状況について、説明し、委員から以下の意見があった。
    - 準天頂衛星は、3機打ち上がっているが、地上は利用拡大をもっと強化していかなければいけない。特に受信機あるいは送信機のセンサーの小型化、センチメートル測位のセンサーがまだ今は大きいため、これを早く小型化することが必要である。安否確認や一斉通報の送信機を小型化することによって利用ニーズが広がっていくため、そういった地上の整備をもっと急速に進めていかなければいけない。それから、準天頂衛星に関しては、この4月から相当、世界が変わるのだというプロモーションをもっとやって、国内外に大きなムーブメントを起こしていかなければいけない。（中須賀委員）
    - 明日から国連の衛星測位に関する国際委員会が開催されるが、そこでも国際競争の中での国際協調のあり方というものがメインテーマとなっていく。今の受信機の小型化等を含めて、いかに本当に利用を広げていくかというのが極めて重要なテーマである。（山川委員）

- アイデアコンテストの「S-Booster」と実証事業は、非常に大事な試みである。大事なのは、この後、どうフォローしていくか。非常にいいアイデアが出てきており、オールジャパンでどんどん支援していくことが必要である。(中須賀委員)

(2) 宇宙基本計画の工程表改訂案について

事務局より、宇宙基本計画工程表の改訂案について、説明し、委員から以下の意見があった。

- 「宇宙開発利用全般を支える体制・制度等の強化策」のところに「国内の人的基盤の総合的強化、国民的な理解の増進」で、初めて産業基盤以外にも探査というか、本当に開発の根っこに当たる部分の人材をどうやって養成するのかという記述として、この記述が入ったのは、非常によい。宇宙基本計画でいろいろ書かれているが、それを実施するのに産業関係以外にも開発、特に宇宙探査というものが重要視されているが、その宇宙探査を我が国として進めていく上で今、人材が非常に枯渇しつつある中で、これを出発点にして、さらにこれを拡大していくような努力をしないと、我が国が自律的に宇宙に行くという、その根幹が揺らぐことになるため、ぜひ進めていただきたい。(松井委員長代理)
- JAXAの中期計画の中でも安全保障というものが最初に出てきており、宇宙政策委員会とJAXAの方向感がかなり合ってきた。今後の安全保障の具体的な内容について、宇宙デブリの除去だとか、そういうところが中心になっているが、これについても余り範囲を矮小化せず、いろいろな安全保障の可能性、それをやはり視野を広くとって、ぜひ議論というか、方向感を出していただきたい。それから、安全保障を深掘りしていくことによって、安全保障が起爆剤となって、民生分野、産業・科学技術基盤の維持・強化がさらに発展しているということが期待されるため、ぜひ今後もそういうことで宇宙政策委員会としてもやっていただきたい。(後藤委員)
- 宇宙と地上インフラの拡充と、それから、宇宙利用の拡大、技術革新、そして、法制度等の仕組み。そういったものがうまくバランスよく、いろんな多面的な観点から進めていくことは重要だと思っており、理想の方向性に徐々に近づいている。その上で、やはり重要なのは、国の政策であり、省庁あるいは地方公共団体等、そこでまずしっかりと利活用を進めていくことが重要。その上で我々の生活とか産業構造に十分に宇宙というものが浸透していく。GPSと同じ

ように、意識せずに使っていくとか、そういった時代が来るのが理想である。予算というものが重要だと思っており、例えば準天頂衛星の7機体制、情報収集衛星の充実、あるいは特に開発費が来年度ピークを迎えると思われるH3ロケットについて、確実に予算を確保することが最初にやるべきことである。(山川委員)

- 宇宙安全保障について、大事なのは宇宙を情報をとる場として、もっと積極的に使っていく必要がある。アメリカなどは、明らかに情報をとる場として宇宙を徹底的に活用していこうとしている。日本としても、宇宙で一体どういう情報がとれて、それを活用するためにはどういうシステムが要るのかということをもっと徹底的に検討して、それを宇宙の中に活用していく、構築していく姿勢が要ると思いますので、これは引き続きやっていきたい。(中須賀委員)
- 宇宙産業分野の人的基盤強化について、人材育成が大事であり、特に今、ベンチャー会社がいっぱい出てきていて、そこにある種のエキスペリエンスな人たちのノウハウであったり、経験がうまく注入されていく。このブレンディングをうまくつくっていく必要がある。(中須賀委員)
- 海外展開について、宇宙産業三千数百億円を五千億円近くにしていくためには、やはり海外にアセットを売っていくことは非常に大事である。海外展開タスクフォースで、何カ国か回ったが、非常に日本のアセットに対しての希望は強く、これをうまくやれば、活用できる。ルワンダ、スマートアフリカという、アフリカをITでトランスフォーム、変えていこうという活動の議長国で、非常な勢いでアフリカにITをまとめて展開していこうということを考えている国で、こういう国が今、日本の宇宙に非常に興味を持ってきていて、一緒になってやっていきたいという気持ちが非常に強いので、こういった国々をうまく見つけて、1個広げて、そこからずっと周りに広げていくという効率のいいやり方をやることによって海外展開をやっていきたい。(中須賀委員)
- 宇宙基本計画の工程表改訂案について、政府内で調整中の事項の取り扱いについては私に御一任いただき、委員会としてはこの案を了承したということにしてよろしいか。(葛西委員長)

(一同、同意)

以上